



MONOist Leaders Forum Launch Series

役職者限定コミュニティイベント

開催日

- Engineering Chain : 2027年2月19日(金) ※予定
- Supply Chain : 2027年5月下旬 ※予定
- Data Connectivity : 2027年8月下旬 ※予定

MONOist Leaders Forum Launch Series



Connecting Manufacturing ～製造業をつなぐ3つのチェーン～

製造業ではDXやAIの導入が進む一方で、その効果を十分に発揮できていない企業も少なくありません。その要因の一つが、設計・開発・製造・調達・物流・情報システムなど、部門や組織ごとに分断された業務やデータ、人のつながりです。個々の取り組みを成功させるだけでなく、それらを連携させ、全体最適につなげることが、これからの製造業には求められています。

「Connecting Manufacturing ～製造業をつなぐ3つのチェーン～」は、製造業の変革を担うリーダーを対象に、「エンジニアリングチェーン」「サプライチェーン」「データ連携」の3つをテーマとして開催するコミュニティシリーズです。各回20名限定の少人数制とし、有識者による講演に加え、参加者同士が課題や実践事例を共有するディスカッションを通じて、組織間連携の在り方や実践的な解決策を探ります。

MONOist編集部が企画・ファシリテーションを担い、製品紹介ではなく「課題」を起点に議論を設計することで、参加者同士、そしてスポンサー企業との質の高い対話を実現します。製造業の変革を前進させるための新たな知見とネットワークを生み出す場を提供します。

アイティメディア株式会社
MONOist 編集長

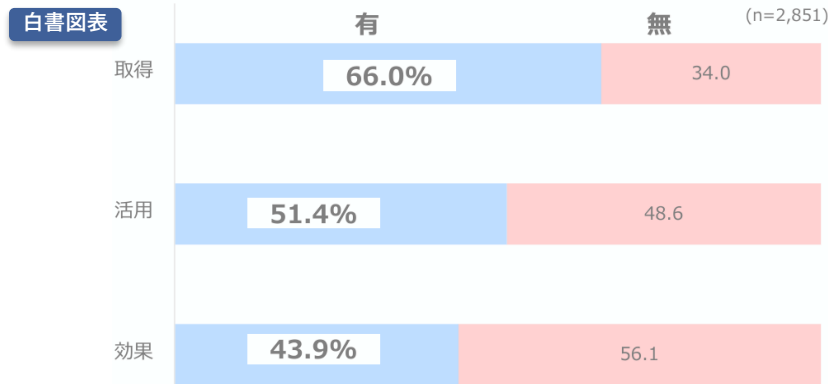
三島 一孝

背景 | ものづくり白書2026が示す「組織間連携」の壁

データは「取れる」。しかし、組織・チェーンを越えて「つながらない」。

DXの次なる課題は、個別最適から全体最適へ。白書のデータが、その“断絶”を示している。

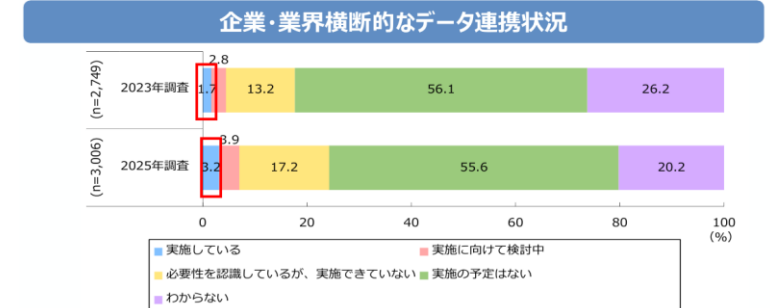
データ活用は進展。ただし「効果」まで届く企業は4割台



壁を越えたデータ連携は、さらに進んでいない

3.2% 企業・業界横断的なデータ連携を「実施」

Supply Chain 内の企業間連携も 16.4%



実際の白書図表：企業・業界横断的なデータ連携状況

白書の示唆：部分最適から「つなぐDX」へ

出所：経済産業省「2026年版ものづくり白書」第4章／三菱UFJリサーチ & コンサルティング調査 参考：MONOist「データは取れるがつかない」（2026年6月12日）

だからこそ Engineering Chain × Supply Chain × Data Connectivity を「部門横断の課題」として議論する

開催概要

	Engineering Chain Leaders Forum	Supply Chain Leaders Forum	Data Connectivity Leaders Forum
開催日（予定）	2027年2月19日（金）※予定	2027年5月下旬	2027年8月下旬
一次締切（予定）	-	2026年12月下旬	2027年3月下旬
最終締切（予定）	2027年1月12日（火）	2027年4月中旬	2027年7月中旬
参加者数	20名	20名	20名
コミュニティイベントのため、回を重ねるごとに登録者の重複が見込まれます			
ご協賛価格 （税別グロス）	280万円	280万円	280万円
ご協賛社数	最低実施：3社協賛 最大：5社協賛		

以下共通

参加者属性	製造業における、工場長、製造部門長、生産技術部門長、設計・開発部門長、DX推進責任者、情報システム部門長、経営企画部門長、経営層など、製造業の変革を担うリーダー
イベント形式	複数社協賛型フィジカルイベント
会場	都内会場
主催/企画 集客/告知	
運営	アイティメディア株式会社

※内容は変更になる場合がございます

開催テーマ

	Engineering Chain Leaders Forum	Supply Chain Leaders Forum	Data Connectivity Leaders Forum
開催時期	2027年2月19日（金）※予定	2027年5月下旬	2027年8月下旬
メインターゲット	事業部長、設計・開発部門長、生産技術部門長、製造部門長、品質保証部門長、DX推進部門長	SCM部門長、調達部門長、生産管理部門長、物流部門長、工場長、DX推進責任者	DX推進責任者、情報システム部門長、デジタル推進部門長、製造部門長、経営企画部門長
テーマ	<u>設計から製造などエンジニアリングチェーンを、どうつなぐか</u> 「顧客要求をどう設計に落とし込むか」「設計内容をどう製造で実現するか」「製造での新たな要求事項をいかに設計にフィードバックするか」「出荷後製品への要望をいかに回収して設計に反映するか」などモノづくりの理想は、こうしたエンジニアリングチェーンの情報とシステムが一元的につながり、これらを高回転で活用した効率的で効果的なモノづくりだ。 しかし、現実的には、部門をまたいだ情報連携は行うことが難しく、これらの組織間が没交渉だったり、いがみ合ったりして、分断されているケースも多い。設計・開発、生産技術、製造、品質保証など、部門ごとに最適化された業務プロセスやデータをどう連携させ、全体最適を実現するべきなのか。 これらの課題に悩む推進者たちを一堂に集め、先進企業の取り組みを土台に、参加者の“生の声”による議論で、リアルな現状と解決策の在り方を模索する。	<u>分断されたサプライチェーンを、どうつなぐか</u> 「需要の変化をどう調達や生産計画に反映するか」「生産と物流をどう連携させ、必要な製品を確実に届けるか」「供給の遅れや途絶にどう対応するか」。変動が大きい事業環境の中、調達・生産・物流・販売が情報を共有し、変化に応じてサプライチェーン全体で最適な判断と対応を行うことが求められている。 しかし、現実には、部門や企業ごとに情報や判断が分断され、需給の変化を把握しても対応が後手に回るケースがある。在庫削減、稼働率向上、納期順守など、それぞれが追う目標の違いも全体最適を難しくしている。社内の部門間からサプライヤーや顧客との連携まで、何を共有し、どのようなルールや体制で意思決定につなげるべきなのか。 これらの課題に向き合うリーダーが集い、先進企業の取り組みと参加者の経験を基に議論する。共通する悩みや目指す姿を手掛かりに、変化への対応力と供給の安定性を高めるための実践策を探る。	<u>データで組織をつなぐ</u> 「製造現場のデータをどう設計や品質改善に生かすか」「部門ごとに管理する情報をどうつなぎ、経営判断に役立てるか」「蓄積したデータをAIで活用するには何が必要か」。製造業では、現場から経営まで必要な情報を共有し、組織を横断してデータを業務改善や意思決定に生かすことが求められている。 しかし、現実には、部門ごとにシステムやデータの定義が異なり、必要な情報を集めて使える状態にするだけでも手間がかかる。データ基盤やダッシュボードを導入しても現場での活用が定着しない、AIに使える品質が確保できないといった課題もある。システム間の接続に加え、データの管理責任や共有ルール、活用を担う人材・組織をどう整えるべきなのか。 これらの課題に向き合うリーダーが集い、先進企業の取り組みと参加者の経験を基に議論する。技術と組織の両面から分断の解消を考え、データを現場で使い続け、事業の成果につなげるための実践策を探る。

※本内容は予告なく変更または実施を中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。ご不明点等は営業担当までお問い合わせください。

テーマ詳細 | 27年2月開催 Engineering Chain Leaders Forum

テーマ	分断されたエンジニアリングチェーンを、どう最適化し、つないでいくか 企画/設計/開発/生産技術/製造/品質保証など、部門ごとに最適化された業務プロセスやシステム、データを、どう連携させエンジニアリングチェーン全体の最適化を実現するか				
参加者が抱える課題	設計と製造、企画と設計、製造から設計へのフィードバックの情報分断		● CAD、BOM、BOP、各種図面などの情報が部門ごとに分断されている ● 設計変更が製造現場へ迅速に伝わらない ● 製造から設計への情報のフィードバックがない		
	エンジニアリングデータの活用不足		● PLMを導入したが定着しない ● 文書管理が属人化している ● 技術情報が再利用できない		
	全体最適を実現する組織づくり		● 設計、生産技術、品質保証のKPIが一致しない ● 部門ごとに最適化され、全体最適にならない ● DXプロジェクトが現場へ浸透しない		
キーワード	# PLM # デジタルスレッド # デジタルツイン	# MBSE # BOM # BOP	# BOE # 設計変更管理 # エンジニアリングチェーン	# 製造DX # 品質管理 # CAD/CAM/CAE	# シミュレーション # モデルベース開発 # データ連携 # ナレッジ共有
ディスカッションテーマ	アンケートで確認するテーマ		回答候補		関連するシステムやサービス
	分断が起きる要因は何か？		・データの分断 ・システムの分断	・業務プロセスの異なり ・部門目標や責任範囲の違い	● PLM ● BOM ● BOP ● コンサルティング ● ワークフロー管理 ● プロジェクト管理 ● コラボレーション ● ドキュメント管理
	分断が気になる組織間はどこか？		・営業（顧客要求）と設計 ・設計と製造 ・設計と解析 ・拠点間	・設計製造と品質 ・調達(サプライヤー)と設計 ・保守と製造 など	● MBSE ● PLM ● BOM ● BOP ● コンサルティング ● プロジェクト管理 ● コラボレーション ● ドキュメント管理 ● 調達管理 ● 保守管理
	分断によって起きる企業影響度をどう見るか		・開発期間の長期化 ・品質問題 ・コストの上昇	・製品競争力の低下 ・顧客提案力の低下 など	● MBSE ● PLM ● BOM ● BOP ● コンサルティング ● ワークフロー管理 ● プロジェクト管理 ● コラボレーション ● ドキュメント管理 ● 調達管理 ● 保守管理 ● データ連携基盤
	分断を解決するために何が必要か		・データの共通基盤 ・システムとしての連携基盤	・部門をまたぐルール作成 ・現場を巻き込んだ仕組み作り ・スモールスタートからの拡大	

※本内容は予告なく変更または実施を中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。ご不明点等は営業担当までお問い合わせください。

テーマ詳細 | 27年5月開催 Supply Chain Leaders Forum

テーマ	分断されたサプライチェーンを、どうつなぐか				
参加者が抱える課題	需要変動や地政学リスクが常態化する中、調達、生産、物流、販売をどうリアルタイムで連携させ、サプライチェーン全体での最適な意思決定を実現するか				
	需要変動への対応		● 変動要因が増え需要予測が難しくなり、生産計画を頻繁に変更せざるを得ない ● 部門ごとの情報連携がうまくいかず、対応にタイムラグが生じる ● 対応が後手に回り、在庫不足、過剰在庫を繰り返している		
	サプライチェーン全体の可視化不足		● 調達、生産、物流の情報がリアルタイムで見えない ● サプライヤー情報を十分に把握できていない(2次、3次情報が把握できない) ● 異常発生時の影響範囲を迅速に把握できない		
	全社最適での意思決定		● 部門ごとにKPIが異なり、意思決定が分断されている ● S&OPや需給調整会議が形骸化している ● AIを活用した計画最適化が進まない		
キーワード	# SCM # S&OP # IBP	# 需給計画 # 需要予測 # APS	# ERP # 在庫最適化 # サプライチェーン可視化	# 調達DX # 物流DX # AI需要予測	# サプライチェーンレジリエンス # 地政学リスク # デジタルサプライチェーン
ディスカッションテーマ	アンケートで確認するテーマ		回答候補		関連するシステムやサービス
	分断が気になる部門のはざまはどこか？		・ 営業と生産 ・ 調達と生産 ・ 生産と物流		● SCM ● S&OP ● ERP ● 受発注システム ● 生産管理システム ● 営業支援システム ● 物流管理システム ● トレーサビリティ
	分断が起きる要因として気になるのは何か？		・ (系統的に)データを集められない、整備できない ・ (組織面の問題で)データが集められない、整備できない ・ 判断が属人化している ・ 部門ごとのKPIが違い協力できない		
	分断解消により実行したい対応策で、特に重視するのはどれか？		・ 変化を素早く把握する ・ 影響範囲と対応選択肢を予測する ・ 迅速な意思決定 ・ 対策の早期の実行		
	分断解消で企業として最も実現したい価値はどれか？		・ 欠品や納期遅延をなくす ・ 過剰在庫と滞留在庫を減らす ・ 調達や物流コストを削減する		
		・ 自社と顧客 ・ 自社とサプライヤー			
		・ 企業間で情報共有できない			
		・ 供給途絶を起こさない体制 ・ 取引先管理の要求に対応			

※本内容は予告なく変更または実施を中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。ご不明点等は営業担当までお問い合わせください。

テーマ詳細 | 27年8月開催 Data Connectivity Leaders Forum

テーマ	データで組織をつなぐ					
	製造現場から設計、品質、調達、経営まで、部門ごとに分断されたデータをどうつなぎ、組織横断で活用するか、AI時代に求められるデータ基盤とデータ活用の在り方を議論する					
参加者が抱える課題	データが部門ごとに分断されている		● 製造、設計、品質、調達などでシステムが分かれている ● 必要なデータが必要な部門に届かない ● データの定義やマスターが統一されていない			
	データはあるが活用できない		● BIやダッシュボードを導入しても定着しない ● AI活用に必要なデータ品質が確保できていない ● 現場でデータを活用する文化が根付かない			
	AI時代のデータ基盤整備		● 生成AIを活用できるデータ基盤が整っていない ● データガバナンスと利活用の両立が難しい ● 全社横断でデータを活用する体制が構築できない			
キーワード	# データ連携 # データ基盤 # Data Fabric	# Data Mesh # データガバナンス # MDM	# BI # データ可視化 # IoTデータ	# MES # ERP # 生成AI	# AI活用 # データ品質 # マスターデータ管理	# リアルタイムデータ活用
ディスカッションテーマ	テーマ		商材イメージ			
	部門を超えてデータをどうつなぐか		● iPaaS		● データ連携基盤	
	AI時代に求められるデータ基盤とは		● クラウド		● データレイク ● Lakehouse	
	現場で使われるダッシュボードとは		● BI		● 可視化ツール	
	AIが使えるデータをどう整備するか		● データ品質		● データカタログ	
	Data FabricとData Mesh、どちらを選ぶべきか		● データ管理ソリューション			
	データガバナンスと現場活用をどう両立するか		● MDM		● ガバナンス	
	MES・ERP・PLMをどう連携させるか		● EAI		● iPaaS ● API管理	
	データを経営判断へどうつなげるか		● BI		● AI分析 ● 経営ダッシュボード	

※本内容は予告なく変更または実施を中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。ご不明点等は営業担当までお問い合わせください。

イベントの特徴

一方的なソリューション紹介からの脱却—— 課題を知り、パートナーとして解決策提案へ

01

集客手法

Point!

誰もが「自分の場」として参加できる環境を醸成

- 参加申込時に事前アンケートを実施し、参加者が抱える課題をヒヤリング、抽象化して参加者に共有
- 協賛各社には参加者の情報（個人情報を除く）を事前にご共有

02

当日：参加者の課題をシェア

- MONOist編集部モデレーターが事前アンケート結果を深掘りしながら、参加者の課題を全員でシェア
- 各テーブルに協賛各社も着席し、参加者の1人として各テーブルでのディスカッションに参加 ※参加者／協賛社とも主催者が着席場所を指定

03

当日：協賛社による解決策の提示

シェアした課題を受けて、各社10分間ずつ「どのような課題解決の提案が可能か」を提示

※投影スライドは開催前にご共有するアンケート結果を基に作成いただきます

04

ディナーでより深いディスカッション

- 座席指定なしの会場にて、ビュッフェ形式のお食事をご用意
- 基調講演講師、MONOist編集部も参加

タイムテーブル

※開始/終了時間をご協賛状況に応じて決定いたします（目安：14:30～19:30開催）
 ※ご協賛社数に応じて変更になる場合がございます

枠時間		内容	詳細
		受付開始	参加者受付
5分	PART 1	開会挨拶	MONOist 編集長 三島から
20分	PART 1	基調講演	ゲスト講師の事例講演
30分	PART 1	自己紹介	プロフィール、課題／知りたいことを共有 （全参加者1名ずつ）
90分	PART 2	課題シェアの時間（テーブルごと）	モデレーターから課題テーマを提示し、 参加者が持つ課題をアウトプット 各テーブルでのディスカッションも実施
10分		休憩	
60分	PART 2	課題解決の時間 協賛社によるピッチ（10分/社）	シェアした課題を受けて、協賛社が解決策を提案 ※ご協賛社1社あたり、10分間のピッチ
10分		休憩	
90分	PART 2	ネットワーキングディナー	ビュッフェ形式のネットワーキングディナー MONOist編集部も参加

ご協賛プラン

内容	ご提供有無	詳細
参加申込者の情報（個人情報を除く）	●	下記2点を開催前にご共有 - 参加申込者の属性情報（個人情報を除く） - 参加申込時に実施する事前アンケートの回答内容
参加申込者の名刺情報	●	開催後（3-5営業日後）に参加申込者の名刺情報をご提供
協賛社ピッチ（1枠）	●	- ピッチ時間：10分間/枠 - 投影スライドは事前にご提出いただきます - ピッチ順は上からご協賛申込み順です
名刺交換	●	ネットワーキングディナーで参加者との名刺交換が可能
資料配布	●	- 事前にご提出いただく資料を会場の座席で配布いたします - 各社1点ずつまで（1点あたりの資料ページ数は20ページ以内）
スポンサーロゴ掲載	●	イベントの集客サイトに貴社の企業ロゴを掲載し、貴社サイトへのリンクを設定可能
ご協賛企業担当者の会場参加	●	当日はご協賛社1社につき2名までご参加可能 *会場の都合上、2名以上でご来場いただいても会場内へのご案内及びイベントへのご参加はできません。

	Engineering Chain Leaders Forum 2027年2月19日（金）※予定	Supply Chain Leaders Forum 2027年5月下旬	Data Connectivity Leaders Forum 2027年8月下旬
開催時期（予定）			
参加者数	20名	20名	20名
料金（税別・グロス）	280万円	280万円	280万円
お申込みはこちらから	枠を予約する	調整中	調整中

お申し込みからの流れ

	1	2	3	4	5	6	7	8
	協賛お申込み 一次締切	イベント 告知開始	協賛お申込み 最終締切	開催準備	参加申込者情報 の提供	講演資料の提出	イベント開催	参加申込者 の個人情報 納品
詳細	一次締切時点でお 申込み企業が3社 以下の場合は開催 中止となります	参加申込みを開始		下記をご提出ください ・ 貴社ロゴデータ ・ 企業情報	以下をご共有します ・ 個人情報を除く ・ 事前アンケート 結果	下記をご提出ください ・ ピッチの投影資料 ・ 当日の配布資料は、 各社での会場送付 または当日持参	当日の運営・進行はア イティメディアが対応	Excel形式で 納品
27年2月開催	開催決定	11月24日（火）	2027年 1月12日（火）	お申込み後順次			2027年2月19日(金) ※予定	
27年5月開催	12月下旬	開催2-3か月前	2027年3月中旬	2027年3月下旬	開催3-4週間前	開催1週間前	2027年5月下旬	閉幕後 3～5営業日後
27年8月開催	3月上旬		2027年6月下旬	2027年7月上旬			2027年8月下旬	

上記スケジュールは目安になります。状況によって変更になる可能性があり、開催決定後に確定したスケジュールをイベント事務局よりご連絡いたします。

ご協賛検討に際して寄せられたご要望／ご質問について

ご要望／ご質問

回答

参加者のターゲットと集客方針を
具体的に知りたい

従業員1,000名以上の大手製造業を中心に、部門の変革を担うリーダーへ参加を呼び掛けます。

自動車、電機電子、機械、精密機器、素材・化学、食品などを対象に、事業部長、工場長、設計・開発部門長、生産技術部門長、製造部門長、品質保証部門長、DX推進責任者などを想定しています。設計部門に限定せず、各回のテーマに関わる複数部門の責任者を対象とします。なお、これらは集客に当たっての想定属性であり、特定の属性の参加を保証するものではありません。

テーマをもう少し具体化し、
参加者の課題に即した議論にしてほしい

具体的な課題やキーワードを示すとともに、事前アンケートで参加者の課題意識を把握し、共通点を基にテーブルを構成します。

各テーマに応じて「どの部門・組織間で分断が生じているか」「何が問題となっているか」「どのような対応策を実現したいか」「最終的にどのような姿を目指しているか」などを事前に伺います。業種や役職だけでなく、こうした回答の共通点を組み合わせてテーブル分けを行います。特に、複数の項目で課題意識や目指す方向が重なる参加者を同じテーブルに配置することで、互いの経験や悩みを共有しやすくし、具体的な対応策まで踏み込んだ議論につなげます。

参加予定者の属性や課題を、
事前に把握したい

開催3～4週間前を目安に、参加申込者の属性情報と事前アンケートの回答内容を共有する予定です。

開催前には個人情報を除いた形で参加者の属性や課題を共有し、協賛企業が参加者への理解を深め、課題に沿った提案を準備できるようにします。協賛社ピッチの資料も、このアンケート結果を踏まえて作成いただく想定です。参加申込者の名刺情報は、開催後3～5営業日を目安に提供します。

参加者の本音や課題を
引き出す運営にしてほしい

MONOist編集部が企画・ファシリテーションを担い、参加者の課題共有と対話に十分な時間を確保します。

現行のプログラムでは、自己紹介に30分、課題共有とテーブルディスカッションに90分、ネットワーキングディナーに90～120分を予定しています。編集部のモデレーターが事前アンケートの内容を深掘りし、参加者の経験や悩みを引き出します。協賛企業にも各テーブルで議論に参加いただき、共有された課題を踏まえて解決策を提示いただく構成です。

協賛企業の参加条件と、
当日の関わり方を明確にほしい

協賛企業の会場参加は1社2名までとし、テーブルディスカッション、協賛社ピッチ、ディナーを通じて参加者と交流いただきます。

参加者20名に対し、協賛企業は最大5社を想定しています。来場者への圧迫感を抑えるため、各社の参加人数を制限し、着席場所は主催者が指定します。ピッチは1社10分間、参加者全員に向けて実施する想定です。担当者の役職・職種に制限はありませんが、参加者と対等に議論し、課題解決のヒントを提供できる方の参加を推奨します。

複数の協賛企業が参加する意義と、
各社の役割を知りたい

協賛企業には、来場者と共に課題を考えるパートナーとして参加いただきます。各社の専門的な知見を持ち寄ることで、さまざまな視点から解決のヒントを探る場を目指します。

テーブルディスカッションでは、来場者と対等な立場で悩みや問題意識を共有し、それぞれの経験や専門分野の知見を交えながら、一緒に議論を深めていただければと考えています。自社の製品・サービスを用いた具体的な提案には、協賛社ピッチやネットワーキングディナーをご活用いただきます。対話を通じて理解した課題を踏まえ、各社がどのように貢献できるかを伝えていただく構成です。

既存のイベントやコミュニティとの違い
を明確にほしい

MONOist編集部が日々の取材で得た課題意識を基に、企業や部門の枠を超えて、変革の当事者が実践知を共有できる点を重視しています。

記事や講演では伝わりにくい、現場への定着の工夫、部門間の調整、失敗や葛藤までを、少人数の対話を通じて共有する場を目指します。編集部がテーマ設計から当日の進行まで関わり、参加者の課題と協賛企業の知見を結び付けます。

※イベントの実施形式は変更になる場合がございます。

ご協賛に関するQ&A

質問	回答
参加者の想定属性を教えてください	実際にお声がけしている参加候補者の属性 ※以下の属性の参加をお約束するものではありません - 企業規模：1,000名以上の大手が中心 - 業種：自動車、電機・電子、機械、精密機器、素材・化学、食品、医療機器、プラント など - 役職：工場長、製造部門長、設計・開発部門長、生産技術部門長、品質保証部門長、SCM部門長、DX推進責任者、情報システム部門長、経営企画部門長、執行役員 など - 地域：都内近郊からの参加が殆どになると想定
協賛企業からの担当者の参加について、役職や職種の制限はありますか	制限はございませんが、部長以上の参加者と対等な会話ができる方のご参加を推奨いたします。
協賛社ピッチは各テーブルごとでの実施ですか	テーブルごとではなく、1社ずつ参加者全員に対して発表いただきます。
ディナーの際、参加者/協賛企業担当者へのフォローはありますか	個社ごとのフォローはございませんが、MONOistの編集部も参加いたしますので、参加者/協賛社問わず適宜お声掛けをいたします。
協賛社への事前インタビューについて、実施可否の選定基準はありますか	選定基準は設けておりません。可能な限り全協賛社にインタビューを行いたいと考えております。ご協賛が決定次第、取材日等のスケジュール調整を行いますが、ご協賛のタイミングによっては調整が困難な場合がございますので予めご了承ください。

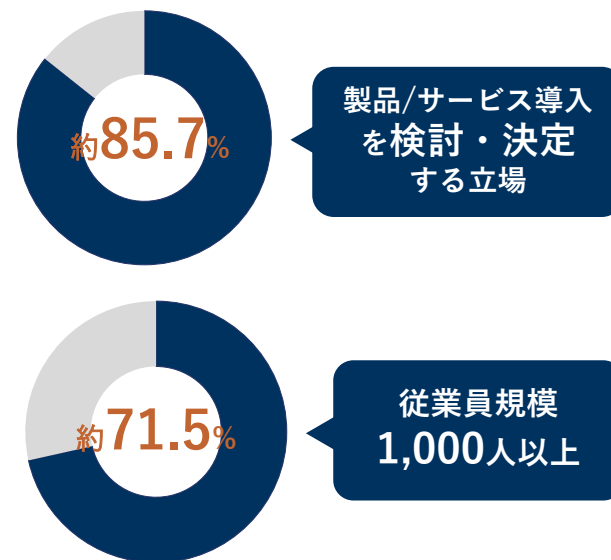
※イベントの実施形式は変更になる場合がございます。

過去実績 | 類似イベント



名称	ITmedia エグゼクティブ Security Leaders Forum 「対話」で導くサイバーセキュリティ戦略
日時	2026年3月9日（月）14:30～19:30
会場	ANAインターコンチネンタルホテル東京
主催	ITmedia エグゼクティブ
全申込者数	21人
参加者数	16人
協賛 (※50音順)	- Okta Japan株式会社 - Cloudbase株式会社 - タニウム合同会社 - Varonis Systems Japan株式会社 - HENNGE株式会社
申込みページ	https://v2.nex-pro.com/campaign/89260/apply?group=2603_ExeSLF
開催報告書	http://go.itmedia.co.jp/l/291242/2026-04-02/2d3kcvp

申込者属性



当日の様子



動画でもご覧いただけます！
[>>こちら](#)

アンケート結果

参加者

全体満足度平均点 **4.87**

協賛社

全体満足度平均点 **4.50**

協賛社の声

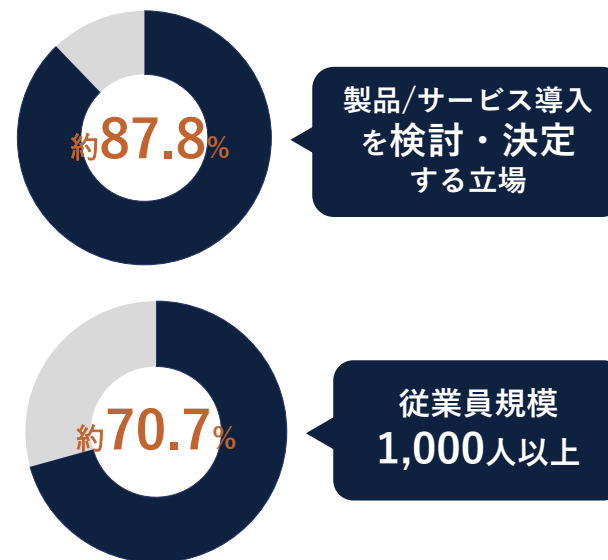
他の施策ではお会いすることのできない方との接点を持つことができてよかった

Security Leaders Forum 2026 夏

AI時代のセキュリティを、本音で語り合う一夜。

名称	ITmediaエグゼクティブ Security Leaders Forum 2026 夏 AI時代のセキュリティを、本音で語り合う一夜。
日時	2026年9月9日（水） 14:30～19:30
会場	ANAインターコンチネンタルホテル東京
主催	ITmedia エグゼクティブ
全申込者数	41人
参加者数	33人
協賛 (※50音順)	- Zimperium, Inc - ゼットスケーラー株式会社
申込みページ	https://v2.nex-pro.com/campaign/94550/apply?group=2609_SecurityLeadersForum2026S
開催報告書	http://go.itmedia.co.jp/l/291242/2026-10-04/2d49ygl

申込者属性



当日の様子



アンケート結果

全体満足度平均点

4.63

回答者の96.7%が「非常に満足」「やや満足」と回答。
各社でセキュリティを統括する責任者層が集い、同じ立場のリーダー同士が
本音で語り合う場として高く評価されました。

協賛社/参加者の声

- 他社さんの生々しい情報を聞けて良かった
- 多様なバックグラウンドをもつ先端的な方にお目にかかれて私自身も非常に勉強になりました。

｜ キャンセル料につきまして

以下の条件のいずれかに該当する場合、キャンセル料が発生しますので、ご了承ください。

発注書取り交わし後のキャンセル
登録用紙提出後のキャンセル
事務局案内開始後のキャンセル

その場合のキャンセル料は以下の通りです。

開催日41日前までのキャンセル	： 契約金額の50%
開催日40日以内のキャンセル	： 契約金額の100%

ただし、上記キャンセル料を超える実費（会場キャンセル料、講師アサインキャンセル料など）が発生する場合には、その追加費用も含めたキャンセル料を請求いたします。

｜ 消費税につきまして

企画書のプランは税抜き表記のため、消費税は別途申し受けます。

モノづくりスペシャリストのための情報ポータル

MONOistは製造業で活躍するエンジニアのさまざまな課題を解決するための情報ポータルです。基礎から応用まで多彩な技術解説記事、図版を多用した分かりやすいコンテンツ、話題のトピックスをより深く掘り下げた連載記事など、モノづくりに役立つ蓄積型コンテンツが充実しています。

製造業関連の最新かつ専門性の高い技術情報を工程・産業別の切り口でご紹介

工程別

組み込み開発

メカ設計

FA

製造マネジメント

キャリア

物流

R&D

産業別

モビリティ

医療機器

ロボット

食品・薬品・衣料品

産業機械

素材・化学

電機

中小製造業

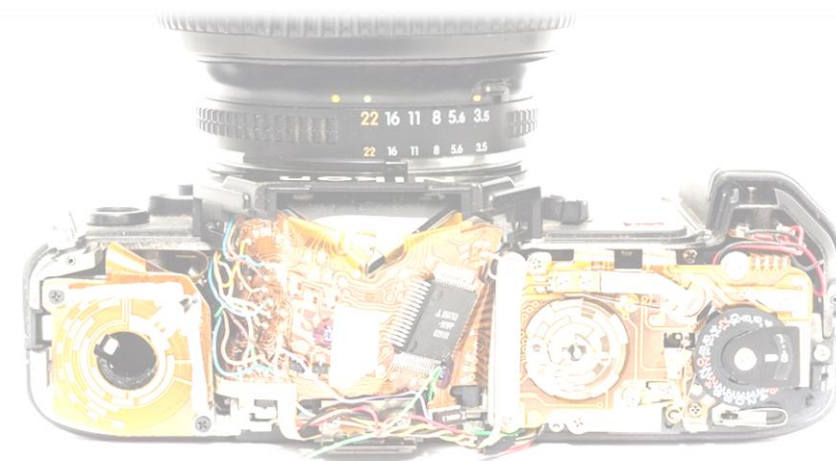


媒体名	MONOist
URL	https://monoist.itmedia.co.jp
PV	1,867,819 PV/月 737,237 UB/月 ※2025年12月時点
メルマガ配信数	モノづくり総合版 約22.1万通



現場からリーダークラス・経営層まで

モノづくりエンジニアを中心に 製造業全体の読者をカバー



64%

製造業

製造業 **64.0%**
情報サービス 11.3%
その他 24.5%

56%

モノづくり
関連職

モノづくり関連職 **55.8%**
社内情報システム **14.2%**
経営・経営企画 **5.1%**
その他 24.9%

60%

役職者

経営者・役員クラス **7.5%**
事業部長・工場長クラス **1.8%**
部長クラス **10.5%**
課長クラス **22.1%**
係長・主任クラス **18.1%**
その他 40.0%

MONOistのモノづくりに関する

多彩な技術解説記事を掲載。

業務の課題解決をすべく、情報収集に積極的な

現場のエンジニアとそのリーダークラスに

愛読されています。

※MONOist読者調査2025（2025年8月）

デジタルイベントに関するお問い合わせ

アイティメディア株式会社 営業本部

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル（受付：13F）

<https://promotion.itmedia.co.jp/contact>

デジタルイベントの最新情報は[こちら](#)